

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 新教育課程の編成

学習指導要領改訂に向け、始動する。教育課程 PT（校長、教頭、両首席、指導教諭、教務主任等）を立ち上げ、教育課程の編成作業に入る。

- ア 現行の教育課程の課題を洗い出し、課題を解決する教育課程の編成作業を実施する。（平成 30 年度実施済）
- イ 次期学習指導要領改訂の内容を組み入れた教育課程の編成作業を実施し、案を作成する。

(2) 確かな学力の育成

- ア 基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
- イ 授業での取組み（最初の 5～10 分に小テストを実施等）及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。
- ウ 英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
- エ 国語表現等において少人数展開授業を実施する。
- オ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。
- カ 課外活動として、希望する生徒に自由研究に取り組みせ、校外での発表を通して主体的な学びを体験させる。
- キ 地球規模の課題 SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。

(3) 授業力の向上

- ア 授業充実 PT を核に「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして授業実践する。校内の ICT 環境を整備したことにより、ICT を活用した授業研究を推進し、興味関心を高め知識の習得を効率化する。また、アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、表現）の向上を図る。
- イ ICT を活用した授業研究を推進する。
※ICT を活用した授業実践を各教科で年間 1 回以上行う。
※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合 80%以上の水準を保つ。
- ウ アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。
※アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間 1 回以上行う。
※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 80%以上をめざす。
- エ 「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。
※研究授業・公開授業の実施回数を年間 10 回以上とする。
- オ 授業力向上の取組み及び BT 学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、漢検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させる。また、英検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させるとともに、英検、GTEC 等の大学入学共通テストで活用される民間の資格・検定試験の受験を推進する。
※英検（2 級 20 名、準 2 級 50 名）及び漢検（2 級 20 名、準 2 級 50 名）の合格者を増加させる。また、CEFR の認定可能な GTEC 等の大学入学共通テストで活用される民間の資格・検定試験の受験者を増加させる。
- カ 授業力向上の取組み及び 3 年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。
※2021 年度には国公立大学合格者数を 30 名に、関関同立大合格者数を 180 名以上にする。

(4) 3 年間を見通したキャリア教育

- ア 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
- イ 補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
※学力生活実態調査を各学年、年 2 回実施し、その分析会を行う。
※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年 1 回以上実施する。
- ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。
※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
- エ 1 年の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。

(5) グローバル人材の育成

- ア 語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- (1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。
 - ア 部活動加入率を 90%以上とし、それを継続発展させる。（平成 30 年度 86.4%）
- (2) 生徒会活動の活性化
 - ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。
- (3) 生徒指導の強化
 - ア 遅刻指導を継続強化する。
 - イ 服装・頭髪指導を継続強化する。
 - ウ 交通安全指導を継続強化する。

<p>(4) 校内美化の推進 ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進 ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。</p> <p>(6) 安全で安心な学びの場づくり ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。 イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。</p> <p>(7) 始業式・終業式で自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒め称える場とする。 ア 部活動の成果等を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。</p> <p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり (1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。 ア 学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 ※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年春は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。 イ 各分掌と各学年のバランスを図る。 ウ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。 (2) 保護者・地域との連携 ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。 イ 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。 (3) 教育活動の情報発信 ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】学級・学校生活について (87.1%, 87.8%)、授業における ICT 活用について (94.4%)、学校行事について (92.3%)、生活・学習規律の指導について (86.3%)、困っているときの対応について (81.9%)、進路行事や進路に関する情報提供 (89.2%)、災害等緊急時の対応について (90.8%)、施設・設備など教育環境について (82.8%)などは肯定的回答がいずれも 80%を超えていることから、本校では大部分の生徒にとって、安全で安心な高校生活が実現できており、学校生活への満足度が高いことが読み取れた。しかし、授業についての肯定的回答が 80%に満たなかった (73.2%)ことは課題と捉え、教員一人ひとりが授業改善を工夫するとともに、さらにわかりやすい、魅力的な授業づくりに向けて組織的な研修に努めたい。</p> <p>【保護者】学校生活について (91.7%)、学校行事について (95.5%)、生活・学習規律について (87.4%)、相談やトラブルへの対応について (84.2%)、人権尊重について (85.5%)、災害等緊急時の対応について (94.4%)など肯定的回答がいずれも 80%を超えていることから、保護者にとっても、生徒の高い満足度、安全で安心な高校生活を実感していると思われる。しかし、一方で授業に対する否定的回答も見られることを生徒の回答と同様に課題と捉えて、来年度は重点的に改善に取り組みたい。また、進路の情報提供について (78%)はわずかに 80%に満たなかった。学校としては、十分に提供しているつもりではあるが、懇談や説明会等を効果的に活用して、積極的な情報発信に努めていきたい。</p> <p>【教職員】生徒・保護者の授業に対する否定的な回答が見られる一方で、教員は学習形態、学習指導の方法は工夫していると答えている教員が多数を占めていることから、このギャップを埋めるために、生徒の実態把握、授業アンケート結果の分析などを通して、組織的な授業改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>*実施日 第1回 (6/17) 第2回 (11/18) 第3回 (2/5) 第1回 (6/17) ・生活規律、交通安全指導など日頃の取り組みが成果を上げているという意見をいただいた。 ・「総合的な探究の時間」における SDGs 探究活動は本校の特色として大きくアピールできる取り組みなのでぜひ推進してほしい、保護者にも参観してもらえばよいという意見をいただいた。 第2回 (11/18) ・学校教育自己診断の授業に関する回答結果から、さらに魅力ある授業づくりに努めてほしいという提言があった。 ・登校指導については、引き続き保護者や地域等とも連携してほしいという意見が出た。 第3回 (2/5) ・誰に向けた情報なのかを組織的に検討して、ホームページをより充実させてほしい。 ・生徒のプレゼン能力を高めるのは良いこと。その意味で「総合的な探究の時間」は良い取り組みである。 ・「働き方改革」の観点から職員の超過勤務時間が減っていることは評価できる。 ・教職員が研修で学んだことを、全体で共有する機会があればよい。 ・登校指導に参加してよかった。登校指導に立っている教員から生徒に対して、より具体的な指示をしてやるとよい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育力の向上	(1) 新教育課程の編成 (2) 確かな学力の育成	イ・次期学習指導要領改訂内容を組入れた教育課程案を検討する。 イ・授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 オ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 カ 希望する生徒に自由研究に取り組ませる。 キ SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。	イ・次期学習指導要領改訂内容を組入れた教育課程案を編成する。 イ・山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を 5%減らす。(平成 30 年度 12.2%) オ・年間の利用者数 4500 人以上をめざす。(平成 30 年度利用者数 3829 人) カ・生徒に校外での研究発表を体験させる。 キ SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における講演会を 10 回以上実施した後、毎回それについてレポートし発表を行う。	イ・プロジェクトチームにおいて基本方針のもとに、次期学習指導要領の教育課程案を構築できた (◎) イ・学校教育自己診断 (教員)「家庭学習を増やす取り組みを行っている」は平成 30 年度 71.2%→平成 31 年度 74.5%であった。また、山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、平成 30 年度 12.2%→平成 31 年度 10.3%となった。(△) オ・図書館の利用延べ人数は 3581 人であった。(△) カ・校外での研究発表に実際に参加するには至らなかったが、校長と面談の機会があった生徒に、全国や大阪での発表の状況を伝えることができた。(○) キ SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間における講演会を 11 回実施し、生徒は毎回それについてレポートし、通算 1 人 4 回発表を行った。1 年生全員が JICA エッセイコンテストに応募し、2 名の受賞者と学校賞をいただいた。(◎)

府立山田高等学校

1 教 育 力 の 向 上	<p>(3) 授業力の向上</p>	<p>ア・ICTを活用した授業研究を推進する。</p> <p>イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。</p> <p>ウ・「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。</p> <p>エ・授業力向上の取組み及びBT学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検における2級・準2級の合格者を増加させる。CEFRの認定可能な大学入学共通テストで活用される民間の資格・検定試験の受験を推進する。</p> <p>オ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。</p>	<p>ア・ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合80%以上の水準を保つ。(平成30年度81.9%) ・学校教育自己診断の(教職員)「ICT機器を授業に活用している」の肯定回答率(以下、同様)90%を確保する。(平成30年度94.0%) ・学校教育自己診断の(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクトを活用している」90%を確保する。(平成30年度91.2%) <p>イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の(教職員)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。(平成30年度69.2%) ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身に付いた」の平均肯定割合80%以上をめざす。(平成30年度78.4%) <p>ウ・研究授業・公開授業を年間10回以上実施する。</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数20名(平成30年度16名)に、準2級の合格者を40名(平成30年度31名)にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定2級の合格者数を10名(平成30年度2名)に、準2級の合格者を20名(平成30年度16名)にする。 <p>オ・国公立大学合格者数を15名以上(平成30年度6名)に、関関同立大合格者数を150名以上(平成30年度123名)にする。</p>	<p>ア・ICTを活用した授業を全教科で複数回実施することができた。また、ICT教材の共有化を進め、教材を更に発展させることができた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身に付いた」の平均肯定割合は78.8%という結果であった。(△) ・学校教育自己診断(教職員)「ICT機器を授業に活用している」89.8%という結果であった。次年度さらに活用推進を図る。(△) ・学校教育自己診断(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクトを活用している」平成30年度91.2%→94.4%(3.2%向上)という結果であった。(◎) <p>イ・アクティブ・ラーニング等の生徒主体の授業を全教科で実践した。班やペアでの協議・発表、教え合い、学び合い等の生徒主体の授業が実施できた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教員)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」は平成30年度78.5%→84.0%(5.5%向上)(◎)であったが「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」は57.2%にとどまり、授業形態だけでなく、内容についても検討が必要である。(△) ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身に付いた」の平均肯定割合は77.8%という結果であった。(△)上記の結果から、生徒を主体とした授業の取組みを進めるべく学習形態の工夫については確実に成果が上がっているが、その内容については、生徒の学力(思考力・判断力・表現力)の向上に向けて一層取組みを推進する。 <p>ウ・研究授業を7回(10年経験教員の研究授業4回)公開授業3回、計10回について、授業観察・研究協議等により授業改善に取り組むことができた。(○)</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数は33名、準2級の合格者は61名であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定2級の合格者数は1名、準2級の合格者は5名であった。検定の運営方法など次年度の検討課題である。(△) ・CEFRの認定可能な民間の検定試験GTECを30名が受験し、そのうち25名がCEFRでA2以上と認定された。(◎) <p>オ・国公立大学合格者数は9名、関関同立大合格者数は109名であった。なお、センター入試の受験者は196名であった。(△)</p>
	<p>(4) 3年間を見通したキャリア教育</p>	<p>イ・補習・講習(課業日の早朝や放課後、長期休業)を組織的・計画的に実施する。</p> <p>ウ・卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>エ・1年の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。</p>	<p>イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。 ・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。 <p>ウ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年1回以上持つ。</p> <p>エ・3大学以上と連携して大学見学を実施する。</p>	<p>イ・課業日の早朝・放課後や土日の講習に加え、各学期の成績結果をもとに長期休業中に指名補習や希望講習を実施。進路指導部が中心となり組織的・計画的に実施することができた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力生活実態調査を1,2学年2回、3学年1回実施した。それを受け、各学年が分析会を行った。(△) ・全国レベルの実力考査を、3年は6/15、2年と1年は1/18に実施し、進路指導に役立てている。(○) <p>ウ・本校同窓会と連携し、11/27に3年生、1/22に1・2年生に対して、卒業生によるキャリア教育講演会を実施した。(○)</p> <p>エ・11/15に1年次の進路校外学習(大阪府立大学、関西学院大学、同志社大学、龍谷大学、甲南大学)を実施し、これを機に進路目標を持たせて意欲的に学習に取り組みさせた。(◎)</p> <p>ア・今夏はメルボルンにあるBentleigh secondary collegeに生徒16名、教員3名が渡豪し、交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。また、次期5年間の姉妹校交流契約について、探究活動の推進についても検討し、更新することができた。(○)</p>
<p>(5) グローバル人材の育成</p>	<p>ア・語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>	<p>ア・姉妹校のBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。なお、交流する生徒数は20名をめざす。</p>	<p>ア・今夏はメルボルンにあるBentleigh secondary collegeに生徒16名、教員3名が渡豪し、交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。また、次期5年間の姉妹校交流契約について、探究活動の推進についても検討し、更新することができた。(○)</p>	

府立山田高等学校

2 豊かでたくましい人間性のほぐくみ	<p>(1) 部活動や特別活動を通じて、豊かでたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p> <p>(3) 生徒指導の強化</p> <p>(4) 校内美化の推進</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進</p>	<p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p> <p>ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。 イ・服装・頭髪指導を継続強化する。特に長期休業あけの指導を強化する。</p> <p>ウ・交通安全指導を継続強化する。全教職員による登校時立番を計画的に実施する。</p> <p>ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p>	<p>ア・部活動加入率 90%をめざす。(平成 30 年度 86.4%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上(平成 30 年度 91.9%)の水準を保つ。</p> <p>ア・遅刻総数前年度比5%減。(平成 30 年度 1597)</p> <p>イ・服装・頭髪違反者なし</p> <p>ウ・交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然防止する。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上の水準を保つ。(平成 30 年度 94.1%)</p> <p>ア・毎日の清掃活動を徹底させる。 ・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。 ・終業式後等に一齐に大清掃(年 3回)を行う。</p> <p>ア・人権研修会(生徒参加型)を年1回以上実施する。</p>	<p>ア・部活動入部率は平成 30 年度 86.4%→88.1% (1.7%向上)であった。今年度は全国大会にダンス部、近畿大会にソフトテニス部、バドミントン部が出場を果たした。文武両道をめざし、仮入部期間を設けるなど、今後も入部率向上を図っていく。(△)</p> <p>ア・(生徒)「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率は平成 30 年度 91.9%→92.3% (0.4%向上)であった。(◎)</p> <p>ア・遅刻総数は 1423 (平成 30 年度同時期 1597)。昨年より 10.9%減である。(◎)</p> <p>イ・生徒指導部と生徒会部が連携して服装指導を実施した。生徒主体で、生徒会執行部・風紀委員が定期的に正門・下足室前に立ち、夏服期間、合服期間、冬服期間を周知徹底した。(◎)</p> <p>ウ・教職員が年間 6 回、早朝に 1～2 週間、10 か所に分かれてポイントに立ち、校外巡視を実施した。今年度、PTA の協力も得て、生徒の交通マナー(規範意識)を高めた。(◎)</p> <p>・(生徒)「服装、頭髪など学校規律についての指導を守っている」の肯定率は 95.2%であった。(◎)</p> <p>ア・担当教員の意識を高め、毎日の清掃を徹底させた。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの清掃を徹底した。終業式後等に一齐に大清掃(年 3 回)を実施することができた。(○)</p> <p>ア・全学年 LGBT についての人権研修会を 10 月 2 日に実施し、保護者の参加も得て、学習する機会とした。また、2 年生全員が 1 月 29 日アニメ「めぐみ」を視聴した。(○)</p>
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	<p>(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p>	<p>ア・学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>ウ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。</p> <p>ア・小学生対象の「科学入門講座」、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。</p> <p>イ・地域との連携を深める。</p> <p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p>	<p>ア・校外学習を、入学から卒業までの 3年間を見通し系統的・計画的に実施する。 ・平成 31 年度においては、1年(2 回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学等の進路学習、2年春は自主性を重んじた修学旅行の事前学習。3年春は最後の体育祭に向けたクラスの団結力を高める取組み。</p> <p>ウ・全校一斉定時退庁日等の徹底。 ・各部ノークラブデーの徹底。 ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員に対する声掛け、産業医面談の実施。 ・上記取組みにより超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。(平成 30 年度延べ 52 名)</p> <p>ア・小学生講座 50 名以上、中学生講座 300 名以上の参加をめざす。(平成 30 年度小学生講座 32 名、中学生講座 253 名)</p> <p>イ・地域協議会等へ 10 回以上参加する。</p> <p>ア・学校説明会を年間 20 回以上実施する。</p>	<p>ア・校外学習を卒業までに 4 回(1 年は 2 回、2・3 年は各 1 回)を計画的に実施した。1 年春は仲間づくり、秋は大学見学等の進路学習。2 年春は修学旅行の事前学習。3 年春は学年・クラスの団結づくりと、3 年間を見通した目標を決め、それに沿って各学年が計画を実施した。(◎)</p> <p>ウ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数平成 30 年度 52 名→29 名(44%減少)(◎)</p> <p>ア・地域の小学生対象の科学入門講座として、7/24 に夏休み理科実験教室を実施し 41 名が参加した。また、9 月に中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」(サッカー、硬式野球、バスケットボール、ソフトボール等)を土日ごとに実施。126 名が参加した。次年度は周知方法を検討する。(△)</p> <p>イ・校長、教頭、PTA が山田東中学校区・地域教育協議会等へ 12 回参加した。また、地域フェスティバル(10/26)に吹奏楽部、ダンス部、PTA が参画した。地区公民館・地区文化祭への美術・書道の出展。その他、地域清掃等を行った。(◎)</p> <p>ア・教育活動の情報発信として、総務部を中心に学校説明会(府立高校合同説明会、本校説明会、塾説明会、中学校説明会等)を全 23 回実施することができた。(◎)</p>